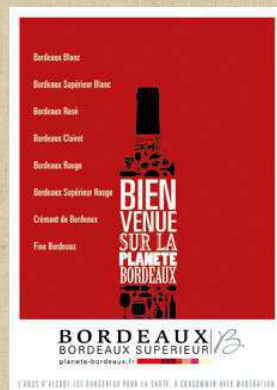




環境全体の調和を図るために畑にマメ科植物や穀物類の種を播き育てている



ビオ栽培の畑では多様な動植物の共生環境を作り出すために養蜂も行われている



# AOC ボルドー ボルドー・シュペリユール

## 2021年ヴィンテージ速報

ボルドー・ワインと言えば、格付けシャトーの赤ワインが目が行きがちだが、白・ロゼ、また赤とロゼの中間的なクレレも高品質なものが多くある。日刊紙「フィガロ」の元ワインコラム記者、ベルナール・ブルチ氏とともに AOC ボルドー白、ロゼ、クレレ、クレマン・ド・ボルドーを試飲し55本を選んだ。また、AOC ボルドー、ボルドー・シュペリユールの代表的な8生産者を紹介する。

text&photographs by Toshio MATSUURA (paris)

AOCボルドー、ボルドー・シュペリユール栽培家組合の協力を得て、2021年ヴィンテージのAOCボルドー白、ロゼ、クレレ、そしてAOCクレマン・ド・ボルドーを試飲し、質の高いワインを選んだ。また、ユニークな取り組みでドメーヌを発展させている組合傘下の8シャトーを訪問した。

20年とは全く異なるプロフィールの年となった。特に、春の霜害、その後の雨によるペト病の蔓延などで収穫量が大幅に減少し、質も不均質だ。しかし、白ワインの多くは過去3年の素晴らしいヴィンテージに匹敵する質で、総じて偉大なヴィンテージとなった。赤ワインは質がやや不そろいだ、21年ヴィンテージの白ワインは迷わずに購入して良いだろう。また、ロゼ、クレレは多くのシャトーが質の向上に力点を置いて醸造の見直しを進めており、興味深い製品を見付けることができる。さらに、クレマン・ド・ボルドーはまだ生産量は少ないが、ここ数年質の向上が目覚ましい。発泡性ワインの品ぞろえの一つとして検討してみる価値があるだろう。

ドメーヌ・シバウのクリストフ・ルビユ氏、クラランス・ティロン・ワインズのナタリ・パソ、ドーキンス氏、ヴァニョーブル・ボルドーのフレデリック・ボルドワリ氏



# CHÂTEAU DE LA VIEILLE CHAPELLE



赤ワイン5種、白ワイン2種を販売。パリックで発酵するセミヨン100%のワインは、個性的で、ヴァン・ド・フランスの規格で販売されている。また、AOC ボルドーで認可されていない品種、ブシャレスを使ったワインも。2年前にシャトー経営に加わった息子たちの意見でラベルを刷新中。写真は新ラベル

造り手の中にはブドウ栽培をビジネスとして捉えている人もいるが、ワイン造りを通して自分の哲学を表現したいと考える人もいる。2006年にドルドーニュ川に沿ったリュゴン・エ・リル・デュ・カルネ村の22ヘクタールの農地を購入し、奥さんとともに新しい事業を始めたフレデリック・マイエ氏は、栽培家と言うより、折りを捧げながら淡々と労働をこなす、敬虔な神父のように見える。

1963年、フランス北部、ノルマンディーの片田舎で生まれたマイエ氏はフランスの経済・金融の名門校、パリ・ド・フィンヌ校で中国語や日本語を学び、日本や上海でさまざまな製品の仲介業などに従事した。そのころからブドウ栽培に興味を持っており、帰国後フランス各地を回り、最終的に、奥さんのファビエンヌさんの出身地であるボルドーに決めた。

22ヘクタールの敷地のうち、ブドウが植えられた11ヘクタールの畑はドルドーニュ川と、数メートルの堤防で隔たれているだけ。地質は粘土とドルドーニュ川が運んできた泥土土壌だ。また、冬の間は畑が水に覆われる特殊な自然環境により19世紀のフィロキセラ禍を免れ、今も、1860年以前のブドウ樹の遺伝子を受け継いだ、台木を使わない、いわゆる「プラン・ビエ」の樹が一部に残っている。

2009年に3本の株をフランスワイン研究所（IFV）に送り遺伝子解析を行ったところ、1本がメルロ、2本がフランス南西地方の古い品種であるブシャレスであることが分かった。さらに14年に約4000本を1本1本調査、その結果メルロ、カベルネ・フラン、カベルネ・ソーヴィニヨンなどに混じって、カルメネル、ブシャレス、モンサン、カステ、バコ、マルベックなど、すでになくなった品種を含めて11品種が混植されていることがわかった。

16年から、これらを挿し木などで増やし、フィロキセラ禍以前の樹を復活させ、ワインを多様化するプロジェクトに取り組んでいる。マイエ氏が特に注目しているのがブシャレスだ。干ばつに非常に強いうえ、糖度が低く、さらにうどん粉病やべと病などに強いことから、地球温暖化に伴う適応品種として有力な候補になるといふ。設立当初から生物多様性の向上と、自然環境に負荷を与えない耕作を行ってきたが、09年にブドウ栽培に移行し、15年に公式のピオ認証「エコセール」、17年にピオディナミ認証「デメター」を取得。

「栽培家の使命はブドウ樹を育てることではなく、土地の世話をすることだ」というピオディナミの始祖、ルドルフ・シュタイナーの考えに共鳴している。

## シャトー・ド・ラ・ヴィエイユ・シャペル



自然と一体化した経営を目指しており、敷地内に巣箱を設置して養蜂を行ったり、動物を放し飼いにしたりしている

「この楽園の一角で、農業に対する情熱を持続し、生活倫理を厳格に守り、消費者に安全で美味しいワインを提供するという夢を実現するために、大地に向き合い責任をもって仕事をしている」とフレデリック・マイエ氏

フィロキセラ禍以前の伝統品種  
ブシャレスの再生を目指す

